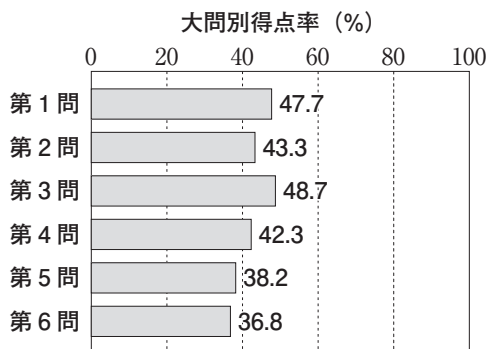
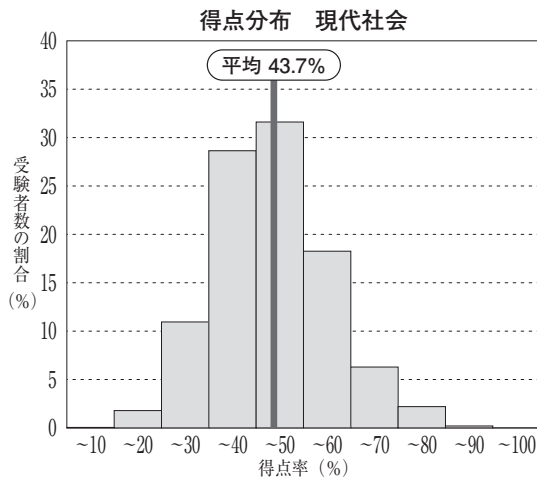


# 現代社会

学習した分野も含め、もう一度確認の徹底を。

## I. 全体講評

今回の2017年度「第2回4月センター試験本番レベル模試 現代社会」の平均点は43.7点であり、前回2月より微増する結果となった。第1問「社会保障制度」や第3問「南北問題」については5割近くの得点率であったが、「現代社会」に特徴的な出題である第5問「大衆社会、国際化」や、「政治・経済」分野のなかでも頻出であり、制度などの理論的事項が多く問われている第6問「各国の政治制度」が、4割未満の得点率となっている。ただ、大問別の得点率の差は比較的小さく、まんべんなく得点された結果となった。



## II. 大問別分析

### 第1問 社会保障制度

社会制度や少子高齢化問題の正確な理解を。

第1問の得点率は47.7%。社会保障制度や少子高齢化問題など、多岐にわたる内容のオーソドックスな出題の大問である。得点率はこの模試で2番目に高かった。そのなかで、日本の税制についての出題であった問1 [1]、少子高齢社会について問うた問3 [3]の正答率が低かった。特に問3 [3]の正答率は11.7%と、この模試で最も低かった。②の選択率が40%を超えているが、合計特殊出生率の低下に歯止めがかりつつあることは必須知識である。

### 第2問 男女共同参画社会

男女平等に関する用語の正確な理解の徹底を。

第2問の得点率は43.3%。特に正答率が低かったのは、問2 [10]、問4 [12]であった。問2 [10]は②の選択率が50%を超えている。男女雇用機会均等法の「努力目標」が「義務規定」になったことはポイントの一つである。問4 [12]は①の選択率が50%近くであり、「クォータ制」の用語理解ができていなかった。センター試験においては用語の正確な理解が問われる。今回のような切り口の出題を予想して対策しておく必要がある。

### 第3問 南北問題

経済分野の基礎概念を確実に理解しよう。

第3問の得点率は48.7%。国際政治および経済分野にまたがる出題の大問だが、この模試で最も得点率の高い大問となった。発展途上国についての出題である問7 [20]など70%以上の正答率となる設問がある一方、実質経済成長率の求め方について問うた問6 [19]は30%未満の正答率となっている。問6 [19]では②の選択率が40%を超えているが、これは実質GDPを出すのにGDPデフレーター（物価上昇率+100）を掛けてしまっているのである。物価が上がれば名目GDPが増えるので、その影響

を除くには GDP デフレーターで割らなくてはならない。計算式の意味を実感として理解していれば、こうした誤りを防ぐことができる。

#### 第4問 人権の国際化, 国際社会

資料読解問題への対策も徹底しよう。

第4問の得点率は42.3%。人権保障から国際状況まで幅広く出題された大問である。突出して正答率の低い設問はないが、問5 [26]の資料読解問題が最も正答率が低くなっているのはいただけない。現代社会の資料読解問題は手間のかかる読み取りや計算が必要なケースもあるので、早く、正確に処理できるよう訓練しておこう。

#### 第5問 大衆社会, 国際社会

倫理分野の学習の徹底を。

第5問の得点率は38.2%。現代社会の特質や倫理的内容を中心にした出題であり、「現代社会」特有の切り口として十分考えられる出題内容だったが、2番目に得点率の低い大問となった。特に思想家について問うた問4 [30]が20%以下の正答率となっており、この大問中最も正答率の低い問題となっている。ほぼ均等に選択率が分かれているので、まったく手がかりが見つけられなかったものと思われる。倫理分野は近年必ず出題されるようになっているので、主要な思想家は一通り把握しておこう。

#### 第6問 各国の政治制度

各国の政治制度の理解の再徹底を。

第6問の得点率は36.8%。政治分野で冒頭に学習するケースが多く、頻出でもある分野からの出題であったが、模試中最も得点率が低い大問となった。一度学習したとしても、知識を定着できていない受験者が多いことを示す結果となっている。そのなかでも各国の政治制度などについて出題された問2 [33]が、この大問で最も低い正答率となっている。現在の国際情勢から見て各国の政治制度、特に首長の選出制度などは出題が想定されるため、復習することで確実に把握しておこう。

### Ⅲ. 学習アドバイス

#### ◆理論的事項の正確な理解を。

今回の模試の結果からは、本番まであと9か月弱

という状況で、一定のレベルで学習を進めているものの、まだ本番レベルになっていない受験者が多いことが、当然ではあるが推測される。「現代社会」は通り一遍の学習である程度得点できる、という感覚では本番で合格レベルの得点を取ることは難しい。特に第6問「各国の政治制度」などの出題傾向でも明白だが、ざっと勉強してニュースをチェックしている、というレベルでは太刀打ちできない種類の出題は、科目として学習することで対応するしかない。学習していない分野は早急にテキストなどで学習するとともに、1回学習した分野でも、テキストを読み直しながら各分野での用語の示す内容を体系的に再確認する努力をしてみよう。

#### ◆次回の模試に向けて。

センター試験は、特に努力の成果がはっきりと出やすい。そしてまんべんなく出題されるため、多くの分野に対応できる力を養成する必要がある。また第4問問5 [26]のような、センター試験独自の出題形式にも慣れる必要がある。受験者には、自分が間違えた分野の復習は当然として、少なくとも「主要国の政治体制」、「経済成長率」、「少子高齢社会」については、次の模試までに再確認を行い、得意分野にする努力が求められる。